

『みんなの図書館』2019年5月号（図書館問題研究会 2019年4月10日発行）

周南市立徳山駅前図書館の開館1周年とTカード問題

図書館友の会山口県連絡会 藤村 聡

今年2月3日に開館1周年を迎えた、通称「ツタヤ図書館」5館目となる周南市立徳山駅前図書館の近況を略報する。

新聞各紙やテレビニュースで「入館者数 200 万人突破！」と相変わらず誇大宣伝される中、市長や関係者が‘もちまき’までするのはやぎようであった。ご承知のようにこの入館者数はセキュリティ・ゲート11か所での多重重複カウントであるうえに、近くに在る同市立中央図書館が昨年9月初から2月末まで6か月間耐震工事等のため休館中という事情も重なったため、まさに虚報に浮かれていると言わざるを得ない。もっとも‘もり・かけ’問題をはじめ統計不正問題など‘うそつき’がトレンドともなっているが？

また、いまだに徳山駅ビル（徳山駅前賑わい交流施設）利用者の中心市街地への回遊が課題と言われているのだが、次年度はこの入館者数も格段に減少するものと予測される。

『出版ニュース』2月上旬号巻頭コラム「こうせい」のタイトル「にぎわいの図書館」に掲載された批判を引用しておく。

「利用者が何百万人、何十万人とにぎわっていることを強調しているものが多い。図書館の本来の役割にそったものかという、必ずしもそうとは言えないのではないか。（中略）図書館は知の砦、生涯学習の場であることが軽視されているといってもいい。問題山積の図書館であることを考えてほしいのである」

この『出版ニュース』が3月末で休刊とは真に残念至極！

カルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）のTカード問題に関しては「朝日新聞」2月4日2面に大きく掲載され、社説にも「Tカードと捜査 不信広がる危うい運用」として論評されていた。さらに、『週刊金曜日』の2月1日号「金曜アンテナ」（p5）には、タイトル「ツタヤ図書館は大丈夫か 「Tカード」利用者情報の捜査当局への提供が表面化」として1ページが割かれていた。

この記事の中で「海老名市立図書館の公式サイトに「個人情報や貸出履歴をCCCに提供しておりません」との告知を掲出した」と記されているが、周南市立徳山駅前図書館のHPでも「図書館カード（Tカード機能付）の個人情報および貸出履歴の管理について」として、徳山駅前図書館長と中央図書館長の連名で同文の掲示を臆面もなく出している。

CCCが指定管理者として個人情報や貸出履歴を管理しながら、「CCCに提供しておりません」と不可解極まるお知らせで、当初から危惧されていたことではあるが、どんな運用をしているのか？不透明どころかブラックボックスになっている。

駅前図書館では2月を「周南きさらぎ文化祭」と銘打って、各種イベントを展開したが、

図書館 PR だけでなく、蔦屋書店等の販促宣伝にも公費・税金が利用されているわけだ。

周南市長選挙が 4 月 21 日に投開票されるが、女性県議（自民党）が立候補表明していて、現市長との激戦が予想されており、注目していきたい。